

滋賀県立水口東中学校3年  
山中 あまね

私は最近、市のあるセミナーに参加しました。その際に、森重裕仁さんという方の講演を聞く機会があり、「らいじゃけサンタ」と呼ばれる彼の活動を知りました。森重さんは「子供たちにライフジャケットを！」という信念の下様々な活動をされています。活動を開始されたきっかけは甲賀市内の小学生二名の川での野外体験講座中の死亡事故でした。ライフジャケットをつけていたら助かったかもしれない、子供の命を守っていたかもしれない、当時教職についておられた森重さんは大きなショックを受け、何かできることはと考えるライフジャケットの重要性について啓発活動をされています。その際、活動で集まった寄付や自費で数えきれない数のライフジャケットを配布されました。「らいじゃけサンタ」の由来です。助けられる命を守りたい、その熱意は素晴らしく、多くの人に届きました。でも彼の講演で知ったのは熱意だけではどうにもならない現実というものでした。

彼はライフジャケットの必要性を説き、可能な限りのものを配布し、自身の思いを拡げました。でも、思いに賛同しても実際に提供できる「物」の数は限界があります。そこで広がりやが止まってしまいます。森重さんはそこで思いだけではどうにもならないことを知り、お金の必要性を感じたと話されました。

私にとりこれは大きな驚きでした。誰かの活動を知り、すごいな、その通りだな、いいことだな、と感じることは今までにもありました。でもそこで終わりでした。その先に進むには思いだけではだめなのです。個人でできること、一団円でできることは限界があります。時間もかかります。そんな時、どうすればいいのか。国、県、市町村に知ってもらい協力してもらおうことで道が開けます。予算をつけてもらい必要な「物」を税金で購入してもらい提供する。実際、過去の事故をきっかけに甲賀市はライフジャケットを購入し、各学校にレンタルするなど、安全対策に予算を割いています。森重さんが現在住まれている香川県でも導入が進んでいます。

このことを知り私が驚いたのは一人の思いが広がり、行政を巻きこみ、動かす力になっていったということです。なんて素敵な税の使い方なんだろうと思いました。税の使い道、使い方について意識を向けるきっかけになりました。税は国民や企業が自分たちの生活をよりよくするために、困っている人たちを助けるために納めるお金です。その使い道を知り、必要であれば新たな使い道を提案する。これが大切なことだと思います。税を使うことで甲賀市ではライフジャケットは当たり前のものとなっています。新しい当たり前を作るには「物」が必要でそれにはお金が必要です。税の多くの使い道の中に私たちの思いのこもったものが一つずつでも増えていくことが私たちの社会をよりよくする力となっていくのではないのでしょうか。